

# マウント志賀

Mount Shiga  
(長野県山ノ内町)



志賀高原といえば、日本最大のスキーリゾートであり、映画「私をスキーに連れてって」の舞台だ。同映画は今から30年前に作られ、これを契機にしてバブル時代にスキー場が大いに盛り上がった。私はまさにバブル世代。当時はあまりスキーをしなかったが、この映画を観ると、今でもスキーの楽しさに心が躍り、運命的な出会いの奇跡を信じたくなる。要するに、この映画と志賀高原は、スキーマニアの聖域である。

そんな志賀高原が、今元気がないように見える。なぜなのだろうか。日本人のスキーヤーはさすがに全国的に減っているが、ニセコ、野沢温泉、白馬は外国人がごった返すほどにブームになっている。日本最大のスキーリゾートである志賀高原がなぜこんなにもさびれているのか、私には理解に苦しむ。交通の便が悪いからなのか、温泉が少ないからなのか、はたまた最長滑走距離が短いからなのか。志賀高原には廃墟になったホテルがたくさんあり、景観を損ねている。

しかし、頑張っているホテルもある。今回紹介するのはそんなマウント志賀の風呂だ。志賀という名の山は存在しないと思うが、マウント志賀は志賀高原の中心部である一の瀬のホテル街の一角にある。

ホテルからグレンデまでは、徒歩でアクセス可能だ。一の瀬ならば、タンネの森、高天が原、寺子屋を経由して西館山、東館山、ジャイアントへもアクセスが容易だ。また、反対方向では焼額山、奥志賀へのアクセスが容易だ。

広大な志賀高原を思う存分楽しんだ後は、風呂とビールが待っている。前置きが長くなったが、マウ

ント志賀の風呂を紹介していこう。残念ながらマウント志賀の風呂は温泉ではない。しかし、スキーヤーの疲れを癒してくれるには十分な設備である。

風呂は1階にある。フロントが3階にあるので、少々変な感じがする。脱衣室では脱いだ物は籠に入れる。このため、貴重品はフロント近くにある貴重品ロッカーを利用しよう。ただし、100円硬貨は返却されない。

浴室は珍しく、入口から見て左右対称の造りだ。左右に洗い場があり、その数は合計13か所。シャンプー等の石鹸類は完備されている。浴槽は定員10人ほど。適温である。

浴槽で足を伸ばしながら、本日の滑りについて思いをはせる。天候は晴れ。パウダースノーを皆でかっ飛ばし、一の瀬のレストランでピザを食べ、奥志賀の高級ホテルで濃厚アイスクリームを堪能。なにもかもが極上の時間である。のぼせ上りそうになったら、ビールをめがけてダッシュだ。

マウント志賀の夕食は思いの外ゴージャスで量も多い。二次会には志賀高原のラベルが貼られた赤と白のワインの差し入れも登場。誰もがあの映画の主人公になったつもりで、志賀高原を満喫していたに違いない。

翌朝も天候は晴れ。風呂でリフレッシュした我々取材班は、再びゲレンデをかっ飛ばしていた。取材班のメンバーの一人が言っていた。「焼額三本攻め」だと。それは、焼額の代表的なロングコース3本を、あっという間に滑り切ることである。その快感は、滑った人にしかわからないであろう。

マウント志賀は、スキーヤーの求める物を知っている。

#### DATA

名称	マウント志賀
所在地	長野県下高井郡山ノ内町志賀高原一の瀬
電話	0269-34-2727
営業時間	要確認
定休日	無休
入浴料	宿泊者は無料
サウナ	なし
サウナ内のテレビ	なし
取材日	2018年2月3日(土)
取材	銭湯愛好会東京支部